



白河二中だより

NO. 36

2024. 1. 12
白河市立白河第二中学校
発行責任者 小野 聡

明けましておめでとうございます。

令和6年がスタートしました。今年の干支である辰にまつわる諺に「龍の雲を得る如し」がありますが、「常に努力や準備をし、好機を待ち、機会を得て活躍する様」を意味します。453名の子ども達がさらに活躍できるよう、支援を続けたいと思います。始業式では次のような思いを伝えました。



保護者の皆様、今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

冬休み中に年が改まりましたので、「今年はこんなことに挑戦しよう!」「こんなことを頑張ろう!」と、新たな目標や思いを持って、1日1日を大切に、学習にも部活動にも全力で取り組んできたことでしょうか。受験を控えている3年生は、将来の自分の姿を思い描きながら、総まとめに力を注いできたことと思います。冬休み中に試験があった生徒もいますが、今日も、そして、明日以降も試験が続きますので、今できる精一杯の努力と準備をしていきましょう。

さて、年が改まった日から、心が動かされ、様々なことを考えさせられる日が続いています。元日には大きな地震が起こり、建物の下になり亡くなった人がいたり、大きな火災が起こり200以上もの家屋が一気に焼失してしまったりするなど、とてもつらい出来事が起こりました。なぜ、私たち人間に、日本に、これほどの試練をもたらすのでしょうか。2日に発生した飛行機事故では、信じられない光景がテレビに映し出されました。飛行機同士が衝突し、炎を上げている中でも、冷静に全員の乗客を誘導した乗務員、また、指示をしっかりと聞き、秩序を守って避難された方々がいたニュースから、「どんなに苦しい状況でも冷静な判断が求められること、周囲の人々の言葉にしっかりと耳を傾けること」の大切さなどを改めて感じました。今、私たちにできることは、亡くなったり、つらい思いをされたりしている方々に思いを馳せること、そして、目の前の困難にも正面から挑み、自分の人生を悔いなく生きるために「今を、精一杯生きること」ではないかと思っています。

また、年末年始に行われたスポーツにも大きく心を動かされました。例えば、年末に開催された全国高等学校バスケットボール選手権大会では、残り4分程しかない状況で、なんと、21点もの差を逆転し、勝利した高校がありました。正月の箱根駅伝では、多くの人に対抗馬と見られていた大学が、攻めの走りを貫き、本命といわれていた大学に見事に勝ちきりました。何が勝敗を左右したのでしょうか。優勝は厳しいと言われたことに対する反骨心もあったのでしょうか、これまでのひたむきな練習に裏打ちされた最後まで諦めない気持ちの強さもあったのだと思います。是非、皆さんも、日常の出来事から、そして、スポーツや芸術などからも様々な学びを得て、自分の成長につなげてほしいと思います。

これまで長きにわたり進められてきた校舎やグラウンドの工事も昨年末をもって、全て終了しました。改めて、白河市や工事をしてくださった方々に対して、感謝の気持ちを持つとともに、新たな伝統を築く後輩のためにも校舎を大切に使用し、3学期はこれまで以上に清掃にもしっかりと取り組んでいきましょう

さあ、卒業式まであと44日、修了式までは50日です。3学期はとても短く時間は限られています。学習面や生活面などでやるべきことをしっかりとやり遂げ、中学校生活で最も大きな行事である3月13日の卒業式に向け、本校の教育目標の「知性」「敬愛」「健康」を、そして、スローガンである「やらねば何もかわらない」を常に心に留め、充実した3学期にしていきましょう。

新たな風を!

昨年末に実施された生徒会役員選挙において選出された役員を紹介します。

○生徒会長 岩本 真波 ○生徒会副会長 菊地 大雅 安田 渚央
○書記 富永 遥斗 芳賀 彩羽 小田しほり ○会計 田中 俊成 國分 聡太
これまでの伝統を大切にしながらも、「変革」を進めてほしいと思います。